

もち麦の高β-グルカン品種、2月追肥倍量施用によるβ-グルカン含量と収量の向上

福崎町特産のもち麦は、健康機能性成分のβ-グルカンを多く含むことで注目されている。そこで、現地で試験栽培された新品種及び追肥倍量施用によるβ-グルカン含量や収量性への影響を検討した。その結果、「四国裸糯136号」は高β-グルカン品種であり、追肥倍量施用は収量向上に有効であった。

内 容

1 品種とβ-グルカン含量

現行品種「米澤モチ2号」のβ-グルカン含量は6.0%、「四国裸糯129号」は5.7%だったが、「四国裸糯136号」は9.6%と現行品種の1.6倍多く、もち麦の高β-グルカン化に有効な品種であった(図1)。

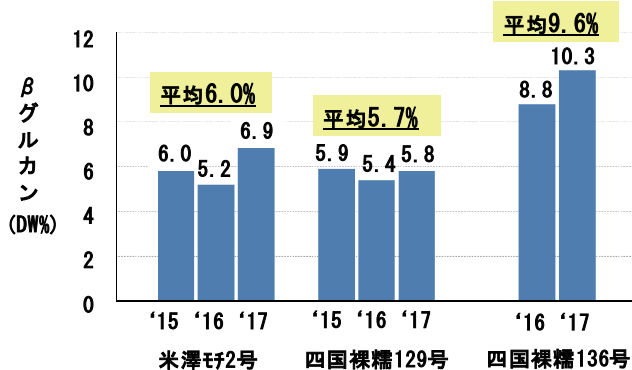


図1 もち麦品種別β-グルカン含量(玄麦)

2 2月追肥倍量施用とβ-グルカン含量

2月追肥倍量施用区(図2)でβ-グルカン量は微増(0.2%増)し、収量は慣行施肥区の104~179%に増加した(図3)。

今後の方針

高β-グルカン品種「四国裸糯136号」の導入や現地栽培体系の改善を図る。

田畑 広之進(北部 農業・加工流通部)
(問い合わせ先 電話: 079-674-1230)

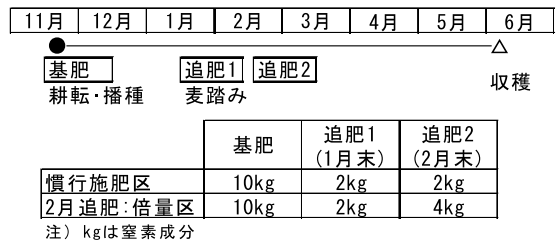


図2 もち麦の2月追肥倍量施用区

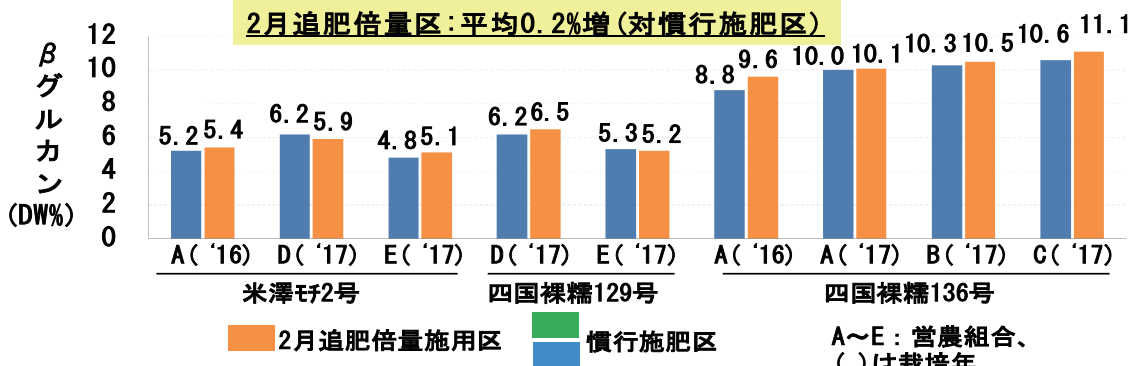
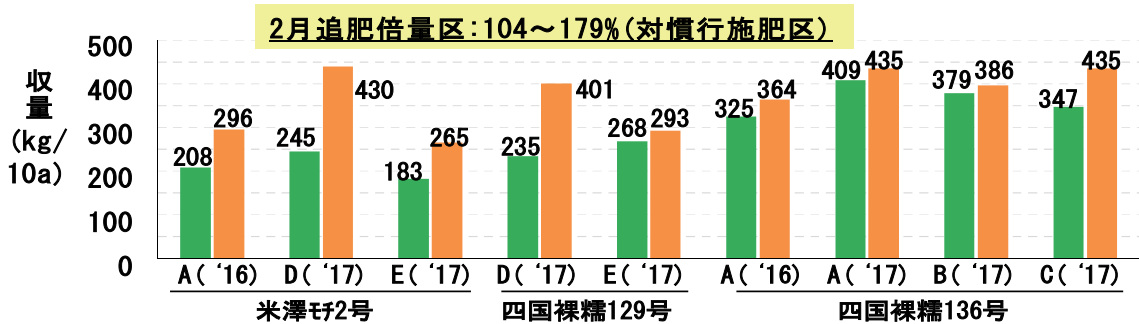


図3 もち麦の2月追肥・倍量施用区のβ-グルカン含量(玄麦)、収量